

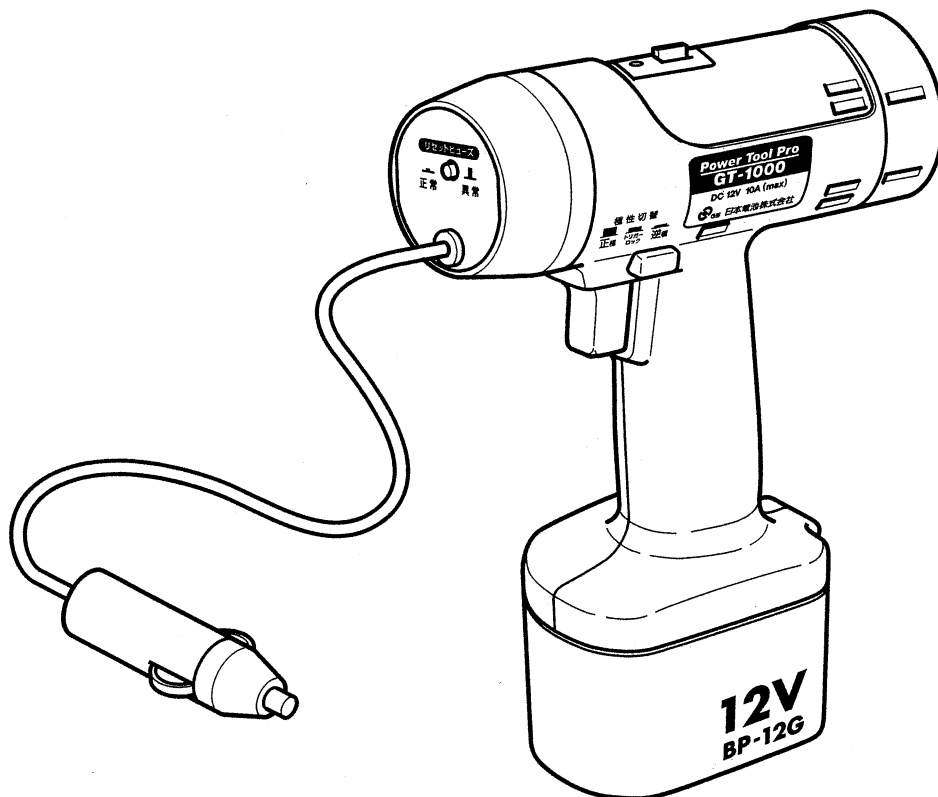


車両バッテリー交換用バックアップ電源
／車両電装品用ポータブル電源 兼用
充電式コードレスツール

パワーツール プロ

取扱説明書（保証書付）

GT-1000・GT-1000SE・GT-1000S
（12V仕様専用）



このたびはGSパワーツール プロをお買い上げいただきありがとうございます。

本製品を正しく安全にご使用いただくためにご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みいただき、使用上の注意事項、本製品の能力、使用方法などについて十分ご理解の上で正しくご使用くださいますようお願い致します。

なお、この取扱説明書は、お読みになった後もお使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

【型名の説明】

パワーツール プロをご使用いただくには、

① ツール本体 ② バッテリーパック ③ 充電器が必要です。

■ GT-1000

① のみの型名です。

■ GT-1000SE

① + ② のセットパックの型名です。

■ GT-1000S

① + ② + ③ のセットパックの型名です。

- 本機は＋（プラス）、－（マイナス）の極性を切替えて出力する機能を持っています。

ご使用にあたり、取扱説明書をよくお読みの上、ご使用ください。

特に注意事項、禁止事項は必ずお守りください。

- バッテリー交換および電装品を操作する際は、必ず車両の取扱説明書やサービスマニュアル等の注意事項に従った方法で行ってください。
- ご使用される前にバッテリーパックを充電してください。
- 本機の専用バッテリーパックは、専用充電器で充電してください。

— 目 次 —

	ページ
■ はじめに	1
■ 概要	2
■ 注意事項（ご使用にあたり必ずお守りください）	3～4
■ おもな仕様	4～5
■ 使用時間のめやす	5
■ バッテリパックと充電器について	6
■ 各部の名称および標準付属品	7
■ 各部のはたらき	8
■ 操作方法	9～13
【バックアップモードの操作方法】	
Ⅰ．車両搭載メモリーのバックアップ電源として使用する場合	10～12
Ⅱ．車両搭載電装品の外部電源として使用する場合	12
（有極性の12V仕様品のみ（10A以下））	
【トリガー出力モードの操作方法】	12～13
■ ご使用後のあとかたづけ	13
■ 故障かな？と思ったら	14

■ はじめに

本機は、ツール本体に脱着可能な専用バッテリーパックを装着して使用します。

操作方法・操作手順を誤ると本機および車両側機器の故障の原因となります。

取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。

本機は、次の用途専用です。

用途以外の使用は、本機および動作機器の故障原因となるだけでなく、ケガや思わぬ事故の原因となります。
絶対におやめください。

用 途

- ① 12V仕様車両搭載バッテリー交換時の各種メモリー（時計、ラジオ、ナビ、車両コンピューター等）のバックアップ用電源。
- ② 12V仕様車両に搭載されている12V仕様電装品の外部電源。

⚠ 警 告

本機は＋（プラス）、－（マイナス）の極性を切替えて出力する機能を持っています。

極性の設定および機器への接続の際は極性を間違えないように十分注意してください。

誤った極性で接続されますと本機および動作機器の破損・焼損の原因となります。

■ 概要

切替えモード	次のことができます。	次の機器が対象です。	操作方法
① バックアップ	・ バッテリー交換の際、各種メモリーをバックアップします。 (12V仕様車両専用) (マイナスアース車専用)	・ 車両搭載メモリー (車両シガライターソケットからのバックアップのみ) (注1)	10～12ページをご覧ください。
	・ 正極性の出力をします。	・ 有極性の機器 (12V仕様)	12ページをご覧ください。
② トリガー出力	・ トリガースイッチを引いた時だけ出力します。 ・ 極性切替えにより正／逆極性の出力をします。	・ モーター、リレー、ライト等の無極性機器 (12V仕様)	12～13ページをご覧ください。

- ・ 有極性の機器とは・・・機器の動作電源として+（プラス）、－（マイナス）の極性表示があるもの。
- ・ 無極性の機器とは・・・機器の動作電源として+（プラス）、－（マイナス）の極性表示がないもの。

⚠ 警 告

動作させる機器が「有極性の機器」か「無極性の機器」が良く確認してください。
確認せずに、誤った極性で接続すると本機および動作機器の破損・焼損の原因となります。

⚠ 警 告 (注1)

「トリガー出力」モードをバッテリー交換時のバックアップ用途で使用しないでください。また、車両搭載バッテリーに直接接続して使用しないでください。
本機や車両側機器の故障、バックアップの失敗およびスパークによるバッテリー引火爆発の原因となります。

⚠ 警 告

バッテリー交換および電装品を操作する際は、必ず車両の取扱説明書やサービスマニュアル等の注意事項に従った方法で行ってください。

⚠ 注 意

本機の出力は最大10Aです。
定常状態で10A以下の機器でも起動時に大きな電流を要する機器を動作させる場合、過電流保護装置（リセットヒューズ）が働く場合があります。

■ 注意事項（ご使用にあたり必ずお守りください。）

ご使用上の注意事項は「⚠ 警告」「⚠ 注意」に区分していますが、それぞれ次の意味を表します。

⚠ 警告	誤った取扱いをした時に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意
⚠ 注意	誤った取扱いをした時に、使用者が重傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意

なお、「⚠ 注意」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので必ず守ってください。

⚠ 警 告

- 本機のバックアップ機能は、12V仕様車（マイナスアース車）専用です。
24V仕様車や使用用途・対象負荷以外で使用されますと本機や車両側機器の故障原因となります。
- シガライターソケットの形状や極性が合わない車種（外国車（欧州車など））にはバックアップできません。
極性を誤って使用すると、バックアップ失敗の原因となります。
- 本機と接続する機器の極性には十分注意して接続してください。
極性を誤って接続すると、本機および車両側機器の破損・焼損の原因となります。
- モード設定、極性切替え等スイッチ設定の際は使用目的に合った位置に設定してください。
設定を誤りますと本機および車両側機器の故障の原因となります。
- 専用バッテリーパック以外のバッテリーを使用しないでください。
メモリーバックアップ失敗および本機や車両側機器の破損・焼損の原因となります。
- バッテリーパックを充電する際は、専用充電器を使用してください。
他の充電器で充電すると電池破損や破損による思わぬケガを招く恐れがあります。
- シガライタープラグの＋（プラス）と－（マイナス）端子を短絡（接続）したり、接続アダプターのクリップを短絡（接続）させないでください。
本機の破損・焼損だけでなくスパークによる引火やケガの原因となります。
- バッテリーパックの端子間を短絡させないでください。
釘袋などに入れると、短絡して発煙、発火、破裂等の恐れがあります。
- 落としたり、投げたりしないでください。
ケガや本機の故障による事故の原因となります。

⚠ 注 意

- 本機には防水機能はありません。
湿度の高い場所や雨水のかかる場所では使用・保管しないでください。
漏電や発煙の恐れがあります。
- 過電流保護装置（リセットヒューズ）が作動した時は原因を取り除いてから再使用してください。
本機や車両側機器の故障の原因となります。
- 本機は、0～40℃の環境下でご使用ください。
範囲外での使用では本来の性能が得られないばかりでなく、本機や機器の故障および発熱による思わぬケガやヤケドの原因となります。

■ 注意事項（ご使用にあたり必ずお守りください。）

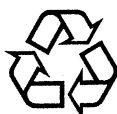
● 分解・改造をしないでください。

・メーカー指定のサービスマン以外の人は本体、充電器、バッテリーパックを分解したり、修理・改造は行わないでください。

発火したり、異常動作してケガをする恐れがあります。

・異常を感じたら使用をやめて販売店にご相談ください。

・修理は、必ずお買い求めの販売店にお申し付けください。修理の知識や技術のない方が修理しますと、十分な性能を発揮しないだけでなく、事故やケガの恐れがあります。



Ni-Cd

ニカド電池は
リサイクルへ

ニカド電池はリサイクルへ！

本製品に使用のニッケル・カドミウム蓄電池（ニカド電池）は、リサイクル可能な資源です。

蓄電池や製品廃棄の際は、リサイクルにご協力いただき、最寄の販売店にお持ち込みください。

バッテリーパックは短絡防止のため、必ず端子に保護カバーまたは絶縁テープを貼ってください。

■ おもな仕様

パワーツール本体：GT-1000の仕様

外形寸法	H224×W69×D162（mm）【バッテリーパック含む】
出 力	DC 12V 10A（最大）
質 量	約1000g【バッテリーパック含む】（本体：約400g）
電 源	専用バッテリーパック（型名：BP-12G）を電源とする。 バッテリーパックの充電は、専用充電器（型名：CH-60G）による。
出力端子	① シガライタープラグ（コード長：700mm／線径：0.75sq） ② ワニ口クリップ（付属の接続アダプター接続時）
過電流保護	リセットヒューズ（10A）手動復帰型
使用環境温度	0～40℃
付 属 品	① バッテリーターミナルケーブル短絡保護用カバー：1個 ② 接続アダプター（コード長：600mm／線径：0.75sq）：1本 ③ 取扱説明書：1部

△ 注 意

「バックアップ」モードの場合の接続アダプターからの出力は、赤色クリップが＋（プラス）、黒色クリップが－（マイナス）です。

「トリガー出力」モードの場合は、極性切替えスイッチの設定により出力極性が反転します。

○ 正極性による出力の場合

赤色クリップが＋（プラス）、黒色クリップが－（マイナス）の出力です。

○ 逆極性による出力の場合

赤色クリップが－（マイナス）、黒色クリップが＋（プラス）の出力です。

■ おもな仕様

バッテリーパック：BP-12Gの仕様

種 類	ニッケル・カドミウム蓄電池
電 圧	DC12V
容 量	1300mAh
質 量	約 600g
期待寿命	充放電回数 約500回以上

充電器：CH-60Gの仕様

入 力	単相交流100V 50～60Hz
出 力	DC12V 2A
定格容量	55VA
充電時間	約45分（BP-12G（充電時）） バッテリーパックの状態（放電状態 等）により変動します。
質 量	約1350g

■ 使用時間のめやす

- 使用可能時間は、バッテリーパックの状態や周囲温度、機器の動作電圧範囲 等により変化します。
下記に一例を示します。

バッテリーパック：新品，周囲温度：25℃，満充電からのめやす時間

消費電流は小型車の一例，使用時間は連続使用した場合の時間

負 荷	消費電流(A)	使用時間(分)	負 荷	消費電流(A)	使用時間(分)
車両電子制御メモリー	0.05～0.2	400	ホーン	3	20
ヘッドライト	6～8	4～8	ワイパー	2	30
室内灯	1	60～70	カーステレオ	2～3	20～30
ストップランプ	4～7	8～10	熱線(リヤウインドウ)	8	4
電動ミラー	2～3	20～30	カークーラー	10	1
パワーウィンドウ	4～5	10	ウインター	2	30
ドアロック(電磁式)	6～7	8	電動サンルーフ	4～10	1～8
カーラジオ	0.1	800			

⚠ 警 告

使用時間が極端に短くなった時は使用をおやめください。
バッテリーパックの液漏れ、発熱、破裂の恐れがあります。

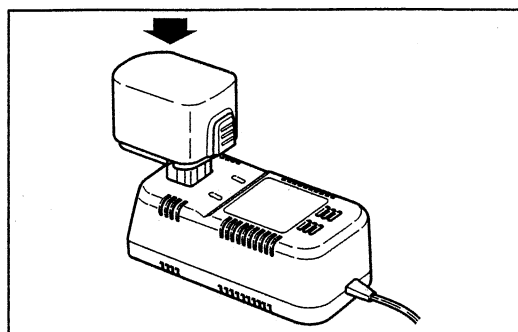
⚠ 注 意

バッテリーパックの容量を越えて放電すると、パワーツールの内部から「カチッ、カチッ」と音がします。
バッテリーパックが放電していることを知らせるためのもので故障ではありません。
過放電は寿命劣化の原因となりますので、すぐに使用をやめてバッテリーパックを充電してください。

■ バッテリーパックと充電器について

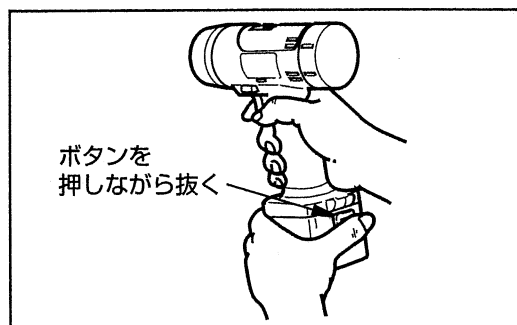
1. 充電の方法

- ① バッテリーパックを充電器にしっかり挿入してください。
- ② 充電器の電源プラグをコンセント（AC100V）に差し込んでください。
- ③ 充電器の赤色のランプ（充電ランプ）が点灯し充電を開始します。
- ④ 充電が完了すると充電ランプが消灯します。



2. バッテリーパックの取り外し・取り付け方

- ① バッテリーパックのボタンを押しながら抜くと取り外せます。
- ② バッテリーパックのボタンを取り付ける時は、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。



3. バッテリーパックの異常表示機能について

本充電器には、バッテリーパックの異常表示機能があります。異常時には次のような表示をします。原因としては、次のようなことが考えられますので対策をとってみてください。

ランプの表示		原因	対策
赤ランプ	橙ランプ		
○：点灯	○：点灯	電池内部の絶縁や内部反応液の劣化などによるバッテリーパックの寿命です。	新しいバッテリーパックと交換してください。
●：消灯	○：点灯		
		放電放置電池です。	少し待つと正常充電になります。 (赤ランプ：点灯／橙ランプ：消灯)
●：消灯	●：消灯	バッテリーパックが高温になっている。	バッテリーパックの温度が下がってから再度充電してみてください。
		バッテリーパックおよび充電器の端子に汚れや異物が付着している場合。	汚れ、異物を取り除いてから再度、充電してみてください。 (電源プラグをコンセントからぬいて行ってください。)
		バッテリーパック内の断線および接触不良の場合。	新しいバッテリーパックと交換してください。

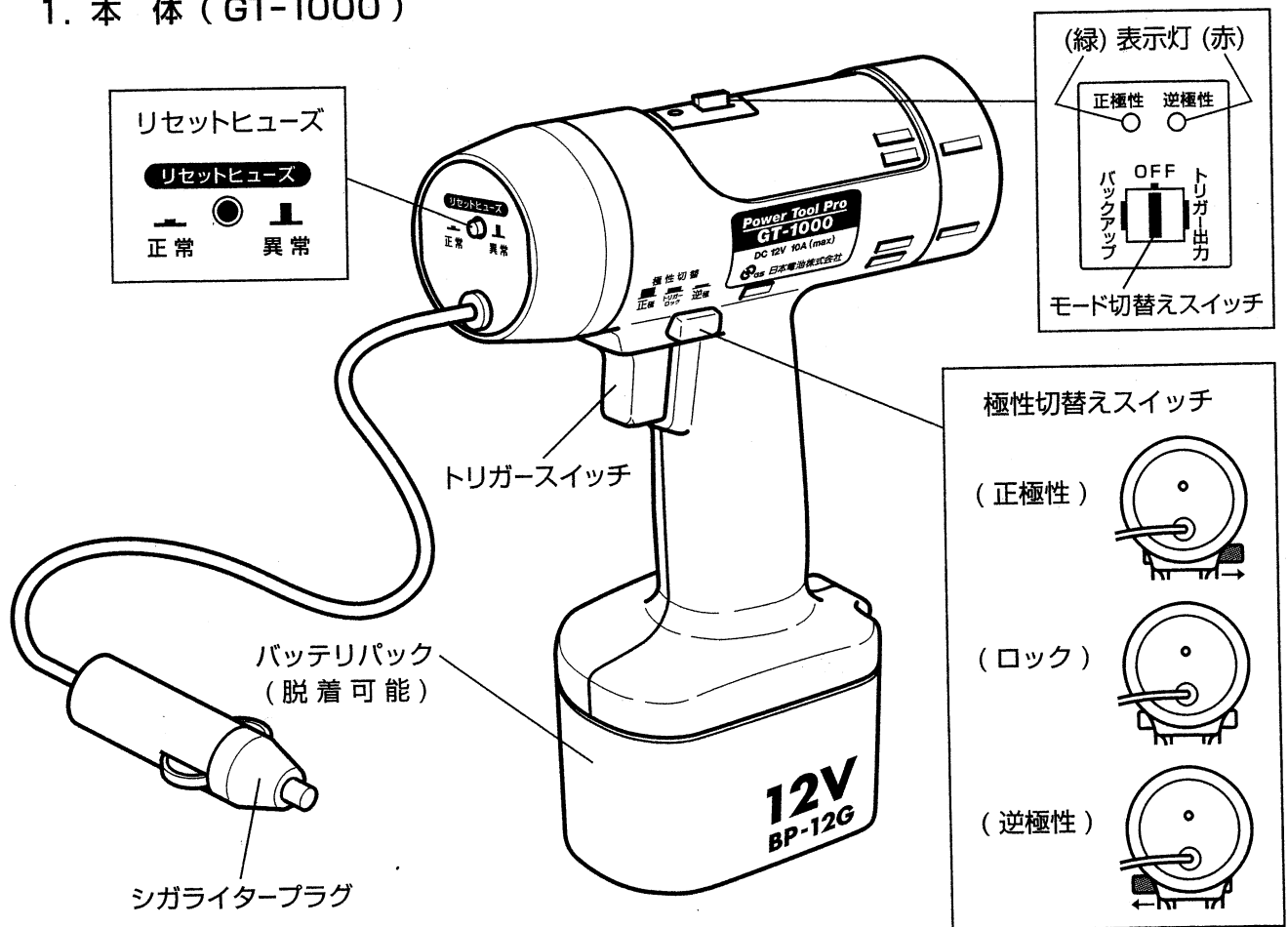
△ 注意

ニカド電池には「メモリー効果」があり、バッテリーパックの容量が残っている状態で充放電を繰り返すと、容量が見かけ上減少し、使用時間が短くなることがあります。

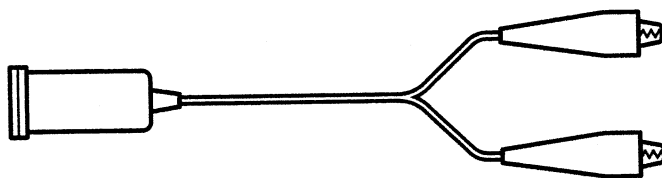
一度完全に放電させてから充電する(これを2～3回繰り返す)ことにより、元の状態に戻すことができます。完全放電をするには、「使用時間のめやす」を参考に負荷をかけて放電してください。

■ 各部の名称および標準付属品

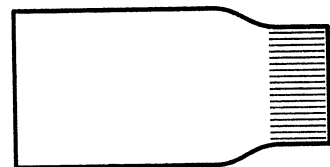
1. 本体 (GT-1000)



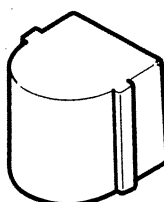
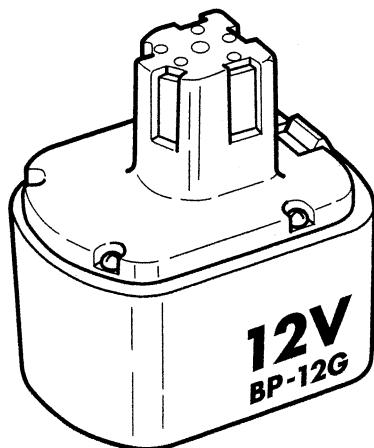
2. 接続アダプター (GT-1000 標準付属品)



3. ターミナルカバー (GT-1000 標準付属品)



4. バッテリーパック (BP-12G)

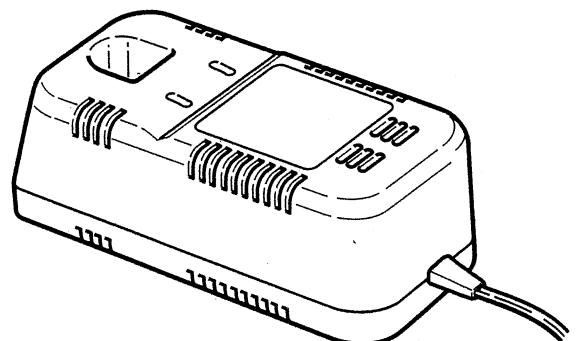


保護カバー

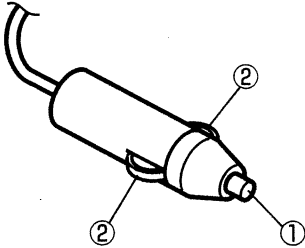
〔本体から取りはずした
バッテリーパックにかぶ
せてください。〕

5. 専用充電器 (CH-60G)

・GT-1000SEには付属していません。



■ 各部のはたらき

名 称	は た ら き
① モード切替えスイッチ	スイッチの位置により、「バックアップ」「OFF」「トリガー出力」の3モードに切替えます。
■ バックアップ	車両搭載バッテリー交換時に車両側のメモリーバックアップをする際に使用します。
■ OFF	本機の出力をOFFにします。
■ トリガー出力	モーター等の電装品の動作確認をする際に使用します。
② トリガースイッチ	「トリガー出力」モードに設定した時のみ有効です。 スイッチを引くと出力され、離すとOFFになります。
③ 極性切替えスイッチ (正極性／逆極性 切替え)	「トリガー出力」モードに設定した時のみ有効です。 トリガースイッチを引くと極性切替えスイッチの切替え位置（正極性／逆極性）に応じて出力されます。 中央位置にするとトリガースイッチを引けなくできます。（ロック状態）
④ 表示灯	出力の極性に応じてLEDにより次の表示をします。
■ 正極性	トリガー出力 ① 本機の出力が正極性で出力されていることを示します。
	バックアップ ② シガライタープラグからの入・出力が正極性であることを示します。
■ 逆極性	トリガー出力 ① 本機の出力が逆極性で出力されていることを示します。
	バックアップ ② シガライタープラグからの入力逆極性であることを示します。
⑤ シガライタープラグ 	本機の出力端子です。 車両のシガライターソケットまたは接続アダプターのソケットに差し込んで使用します。 「トリガー出力」モードの時は、極性切替えスイッチの位置により次の極性で出力されます。 ■ 正極性 —— ① ⇒ +（プラス），② ⇒ -（マイナス） ■ 逆極性 —— ① ⇒ -（マイナス），② ⇒ +（プラス） ※「バックアップ」モード時は常時、正極性で出力されます。
⑥ リセットヒューズ	本機に過電流が流れると作動（赤色のノブが約2mm飛び出す）して回路を遮断します。 しばらく（30秒以上経過してから）待ってノブを押すと復帰します。

■ 操作方法

⚠ 警告 ⚠ 注意

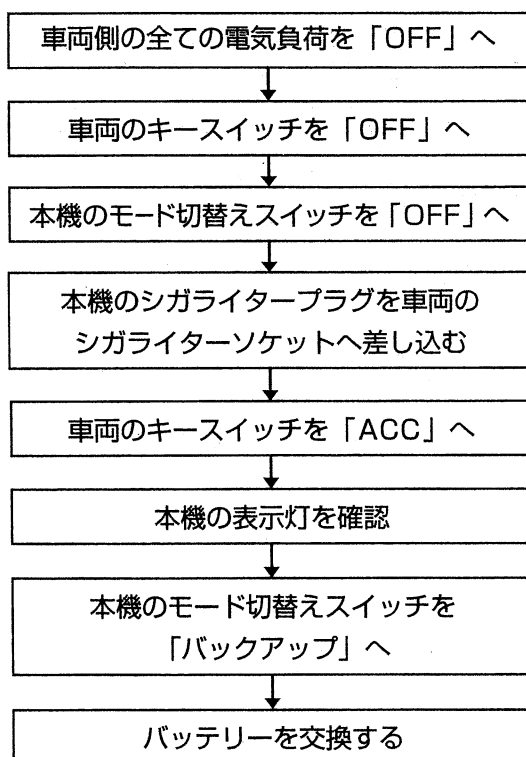
ご使用にあたり、必ずお守りください。

- 操作にあたっては、各操作モードの操作手順に従ってください。
誤った操作方法・手順は本機や動作機器の破損の原因となります。
- 使用前にバッテリーパックを満充電にしておいてください。
操作中にバッテリー容量がなくなると機器の停止やバックアップの失敗の恐れがあります。

操作方法・手順の流れ（次ページ以降の詳細手順を必ずお読みください。）

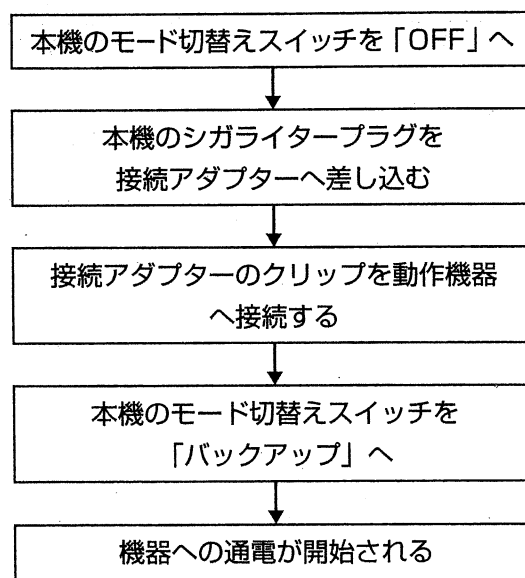
【バックアップモードの操作方法】

I. 車両搭載メモリのバックアップ電源として 使用する場合

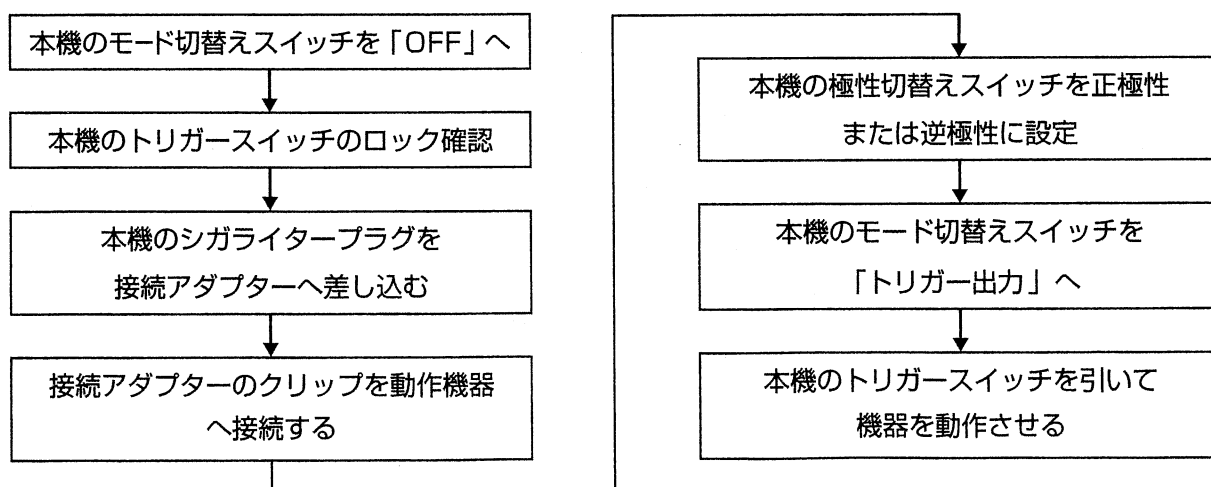


II. 車両搭載電装品の外部電源として使用する 場合（有極性の12V仕様品のみ(10A以下)）

〔使用例：リレーの動作確認等〕



【トリガー出力モードの操作方法】



■ 操作方法

⚠ 警告 ⚠ 注意

ご使用にあたり、必ずお守りください。

- 操作にあたっては、各操作モードの操作手順に従ってください。
誤った操作方法・手順は本機や動作機器の破損の原因となります。
- 使用前にバッテリーパックを満充電にしておいてください。
操作中にバッテリー容量がなくなると機器の停止やバックアップの失敗の恐れがあります。

【バックアップモードの操作方法】

I. 車両搭載メモリのバックアップ電源として使用する場合

■ 車両側の準備

- (1) 車両側の全ての負荷機器（エアコン、カーステレオ、ナビ、室内灯、熱線 等）の電源スイッチを「OFF」にします。

⚠ 注意

OFFにせずにバックアップ作業をされると、本機の過電流保護装置（リセットヒューズ）が働き、バックアップ失敗の原因となります。

- (2) 車両のキースイッチを「OFF」の位置にします。

■ 本機の準備とバックアップ作業

- (3) モード切替えスイッチを「OFF」の位置に設定します。
(4) バッテリーパックを接続します。
(5) シガライタープラグを車両のシガライターソケットに奥までしっかり差し込みます。

⚠ 注意

接続状態が悪いとバックアップ失敗の原因となります。

⚠ 注意

シガライター使用直後にプラグを差し込まないでください。
熱によりプラグが変形し、抜き差しできなくなったり、ソケット内部で短絡などの思わぬ事故につながります。

- (6) キースイッチを「ACC」の位置にします。

（シガライターソケットと車両バッテリー間の接続確認）

- (7) 正極性 表示灯（緑色）が点灯することを確認します。

⚠ 注意

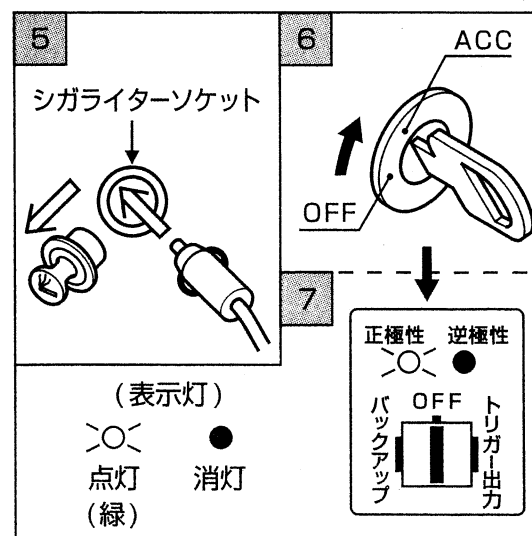
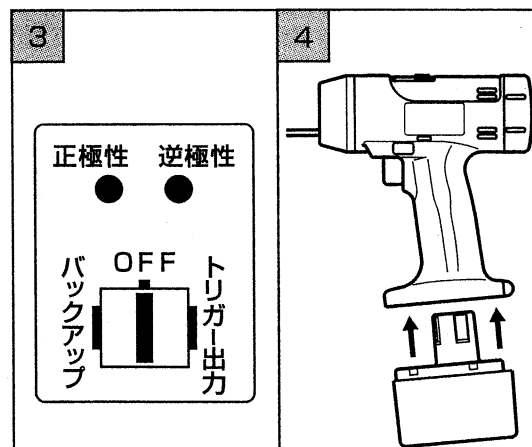
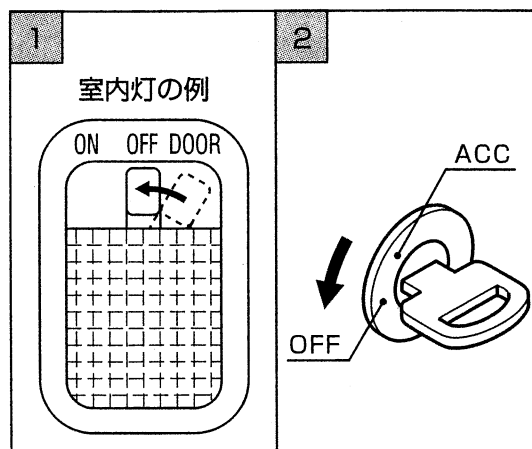
表示灯が点灯しない時は、シガライターと車両バッテリー間が電氣的に離れた状態にあります。

シガライターソケットからのバックアップ作業は出来ません。

⚠ 警告

逆極性 表示灯（赤色）が点灯した場合は、本機と車両側バッテリーの極性が合いません。このまま作業を続けると本機の故障原因となります。

絶対にバックアップしないでください。



■ 操作方法

(8) モード切替えスイッチを「バックアップ」の位置にします。

バックアップが開始されます。

正極性 表示灯は点灯したままです。

△ 注意

キースイッチの位置は「ACC」のままです。

バックアップ中にキースイッチを操作すると、バックアップ失敗の原因となります。

■ バッテリーの交換作業

(9) 車両側バッテリーを取り外します。

－（マイナス）側ターミナル



＋（プラス）側ターミナル

の順序で取り外します。

△ 警告

取り外した＋側ターミナルに付属のターミナルカバーを被せて絶縁してください。

＋側ターミナルと車両のボディ等が接触するとショート状態となりバックアップに失敗するばかりでなくスパークの恐れがあり、漏電、ケガ・バッテリー爆発の原因となります。

△ 注意

バッテリーターミナルに接続されているカブラーやコネクタは不用意に取り外さないでください。

バックアップ失敗の原因となります。

△ 注意

バックアップ中に車両側バッテリーを取り外した状態で車両負荷の電源を不用意にONしないでください。

過電流が流れ、バックアップ失敗の原因となります。

(10) 古いバッテリーを取り出して新しいバッテリーを搭載し、

＋（プラス）側ターミナル



－（マイナス）側ターミナル

の順序で確実に接続してください。

△ 注意

新しく搭載するバッテリーは、型式およびR/Lのタイプを良く確かめてください。

誤ったタイプを接続するとバックアップ失敗はもとより、本機や車両の故障の原因となります。

8

(表示灯)
○ 点灯
(緑)
● 消灯

正極性 逆極性

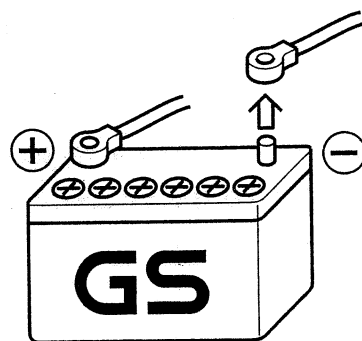


バックアップ

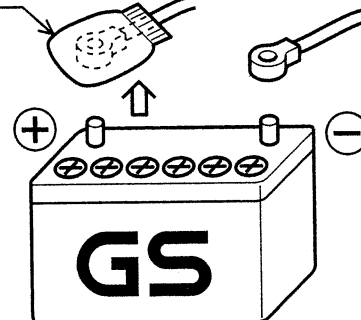
OFF

トリガー出力

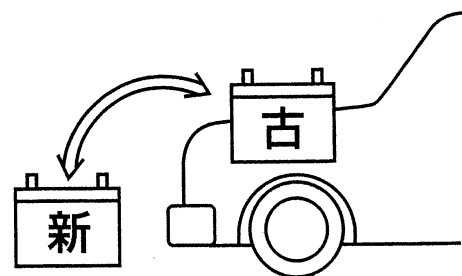
9



ターミナルカバーを被せる



10



■ 操作方法

(11) 本機を取り外します。

(8) ⇒ (5) の逆手順で各スイッチを戻してシガライタープラグを取り外してください。

Ⅱ. 車両搭載電装品の外部電源として使用する場合（有極性の12V仕様品のみ（10A以下））

〔使用例：リレーの動作確認等〕

(1) モード切替えスイッチを「OFF」の位置に設定します。

(2) シガライタープラグを接続アダプターのソケットに奥までしっかり差し込みます。

(3) バッテリパックを接続します。

(4) 動作機器の極性を十分に確認して接続アダプターのクリップを機器に接続します。

⚠ 警告

接続する機器の極性に十分注意して接続してください。
極性を間違えて接続すると機器破損の原因となります。

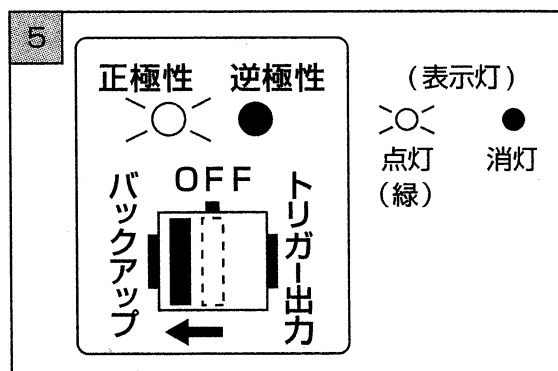
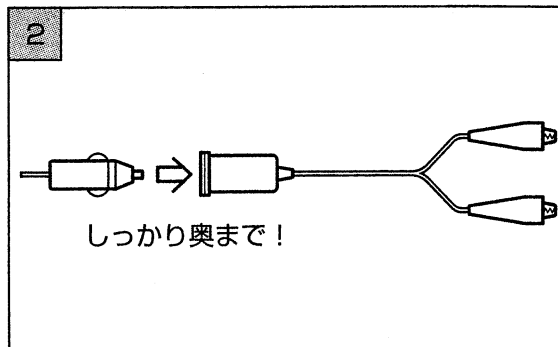
(5) モード切替えスイッチを「バックアップ」の位置にします。

正極性 表示灯が点灯し、機器への通電が開始されます。

(6) 機器から接続を外す時は、必ずモード切替えスイッチを「OFF」の位置に戻してから行ってください。

⚠ 注意

通電したまま機器から接続を離すと本機や動作機器の破損の恐れがあります。



【トリガー出力モードの操作方法】

⚠ 警告

「トリガー出力」モードをバッテリー交換時のバックアップ用途で使用したり、車両搭載バッテリーに直接接続して使用しないでください。
本機や車両側機器の故障、バックアップの失敗およびスパークによるバッテリー引火爆発の原因となります。

(1) モード切替えスイッチを「OFF」の位置に設定します。

(2) 極性切替えスイッチを中央位置に設定し、トリガースイッチがロックされていることを確認してください。

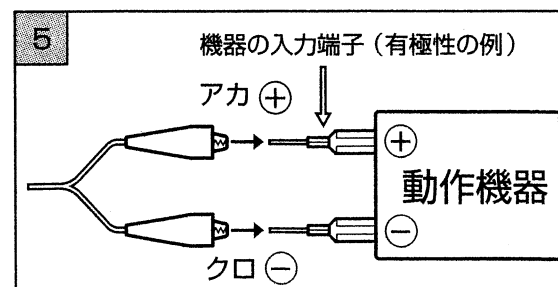
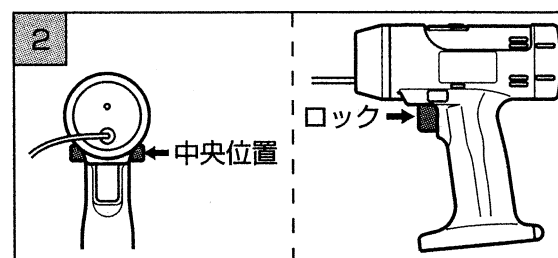
(3) シガライタープラグを接続アダプターのソケットに奥までしっかり差し込みます。

(4) バッテリパックを接続します。

(5) 動作対象機器の極性を十分に確認して接続アダプターのクリップを機器に接続します。

⚠ 警告

極性がある機器に接続する場合は特に極性に注意して接続してください。
極性を間違えて接続すると機器破損の原因となります。



■ 操作方法

(6) 極性切替えスイッチを正極性または逆極性に設定します。

⚠ 警告

極性を有する機器には必ず正極性の位置で使用してください。

極性を間違えて設定すると機器破損の原因となります。

(7) モード切替えスイッチを「トリガー出力」の位置にします。

(8) トリガースイッチを引くと極性切替えスイッチの設定に応じた極性の出力が機器に入力されます。

トリガースイッチを引いた時だけ出力されます。

また、表示灯にて出力極性を表示します。

● 正極性（緑色） —— 正極性を出力しています。

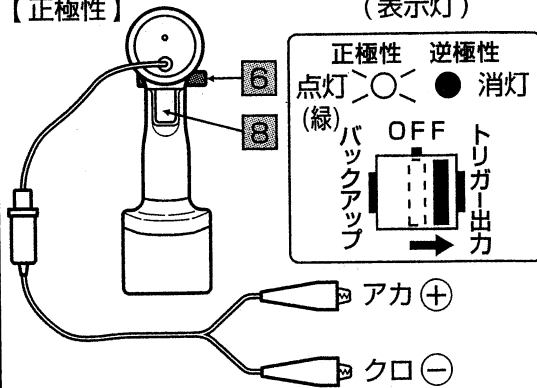
● 逆極性（赤色） —— 逆極性を出力しています。

(9) 機器から接続を外す時は、必ずトリガースイッチから手を離してから行ってください。

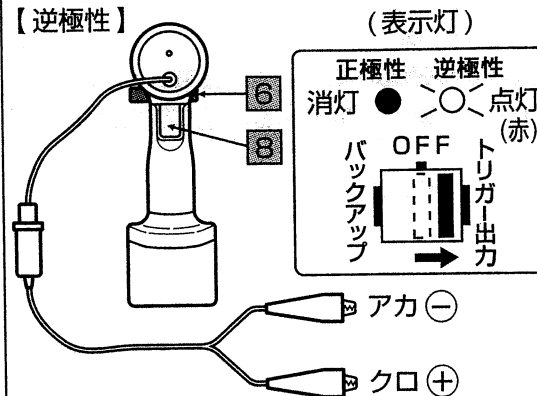
⚠ 注意

トリガースイッチを引いたまま機器から接続を外すと本機や動作機器の破損の恐れがあります。

【正極性】



【逆極性】



■ ご使用後のあとかたづけ

● 極性切替えスイッチ⇒中央位置（トリガースイッチがロックされる位置）

● モード切替えスイッチ⇒「OFF」の位置

各スイッチを上記の位置に設定して各表示灯が消灯していること、およびトリガースイッチがロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

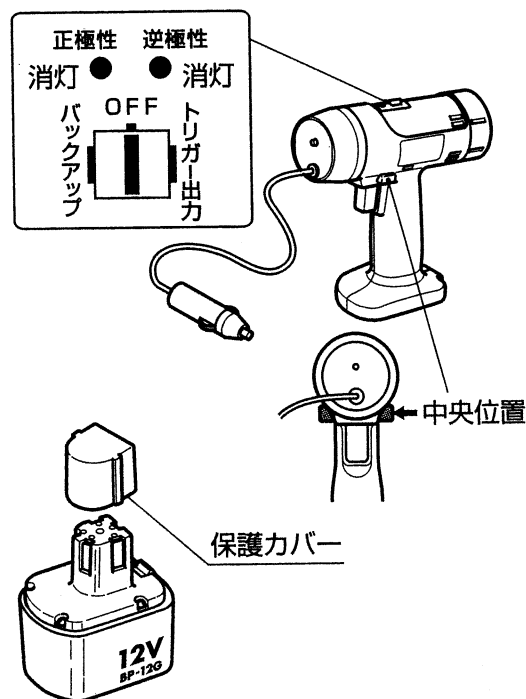
使用后、表示灯を点灯させたまま放置したり、OFFの位置以外で放置されますと本機の内部回路に微小電流が流れバッテリーバックが過放電します。バッテリーバックの液漏れ・故障および本機の思わぬ破損につながる原因となりますので使用後は必ずOFFの状態での保管してください。

また、長期間ご使用にならない場合は、必ずバッテリーバックを本体から取り外して保管してください。

⚠ 警告

取り外したバッテリーバックは＋端子が短絡しないように保護カバーを被せて絶縁処理をしてください。

【保管時の状態】



■ 故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。

こんなときは	これが原因です。	次のことを点検してください。
バッテリー交換時にバックアップができない。	・車両キースイッチが「OFF」の位置になっている。	・バックアップ中は必ずキースイッチを「ACC」の位置にしてください。
	・本機のモード切替えスイッチが「OFF」になっている。	・バックアップ中はモード切替えスイッチは「バックアップ」の位置にしてください。
	・本体内蔵の過電流保護装置（リセットヒューズ）が作動している。	・室内灯、ヘッドライト等の車両電気機器を動作させたり、バッテリーターミナルをショートさせてたりしていないか、といった異常個所を直してからリセットヒューズのノブ（赤色）を押し込んでください。
	・本機のシガライタープラグが車両のシガライターソケットの奥まで確実に差し込まれていない。	・シガライタープラグを車両のシガライターソケットの奥までしっかりと差し込んでください。
	・交換用の新しいバッテリーにバッテリーターミナルが接続できていない。	・交換用の新しいバッテリーを接続してから本機を取り外してください。
	・バッテリーパックが放電している。	・バッテリーパックを充電してからご使用ください。 （「バッテリーパックと充電器について」ページを参照ください。）
モード切替えスイッチを「バックアップ」にしても表示灯が点灯しない。	・バッテリーパックが放電してる。	・本機の電源は、約8V以上必要です。バッテリーパックを充電してください。
パワーツール本体から「カチッ、カチッ」と音がする。	・バッテリーパックが放電してる。	・故障ではありません。 バッテリーパックが放電しているためです。速やかに作業をやめてバッテリーパックを充電してください。
使用後、バッテリーパックが熱い。	・大電流で放電すると、バッテリーパックは熱くなります。	・充電の際は、バッテリーパックを冷ましてから充電してください。
バッテリーパックが充電できない。 （バッテリーパックは温かい）	・大きな電流を要する負荷に使用した。	・高温状態からの充電はできません。冷めるまで待って充電を再開してください。 （「バッテリーパックと充電器について」のページを参照ください。）
バッテリーパックが充電できない。 （バッテリーパックは冷たい）	・充電器またはバッテリーパックの不具合が考えられます。	・充電器に電源（AC100V）が投入されているか、バッテリーパックから電圧が出ているか電圧計で点検してみてください。
モード切替えスイッチを「OFF」にしても表示灯が消灯しない。	・電気回路をもっている機器を動作させた場合、「OFF」直後は内部のコンデンサー等により電圧が残っている場合があります。	・故障ではありません。 しばらく放置すると消灯します。
その他の異常や点検しても直らない。	_____	・ご購入店にご相談ください。